

市町村・一部事務組合等との「業務実施覚え書き」新旧対照表

プラスチック資源循環促進法（32条）の施行に伴い、令和5年度より、当協会にて分別収集物の再商品化業務が開始となりました。しかし、再商品化業務を実施している中で、引き渡しに関わる様々なトラブルが発生しております。今回発生したトラブルは、容器包装リサイクル法に関わる全素材の引き渡しについても発生する可能性があり、これらのトラブルを未然に防ぐため、その内容を「業務実施覚え書き」にも盛り込むことになりました。そのため、以下の条文において、令和6年度の「業務実施覚え書き」の記載内容が変更となります。変更箇所は、アンダーラインの部分です（「業務実施覚え書き」において、年度等の軽微の修正は新旧対照表には記載していません）。

●「業務実施覚え書き」（特定事業者負担分）

令和6年度	令和5年度
<p>(引き取り方法) 第6条 略</p> <p>2～5 略</p> <p>6 甲は、引き渡し量の検量方法について、再商品化事業者と事前に協議して決定する。また甲は、引き渡し対象となる分別基準適合物について、再商品化事業者とともに引き渡し後の完了確認等を行い、誤引き渡しの防止に努めなければならない。</p> <p><u>7 甲による誤引き渡し認められた場合、乙は甲に対し、誤引き渡しの防止のための改善を要求することができる。甲は、乙から改善の要求を受けた場合、速やかに誤引き渡しの防止のための具体的な改善案を書面で乙に提示し、改善のために必要な措置を講じるものとする。この場合において、改善のための必要な措置が講じられない又はその見込みがないと乙が判断した場合、乙は、甲からの引き取りの全部又は一部を留保することができる。</u></p> <p><u>8 前項による甲からの引き取りの留保が継続したまま本契約が終了した場合、引き取りが留保された分別基準適合物は乙に引き取られないものとし、甲の負担において適正に処理するものとする。</u></p> <p><u>9 本条への違反が認められた場合、乙は次年度以降における覚え書きの締結を拒むことができるものとする。</u></p> <p>(引き取り作業) 第9条</p> <p>乙は、再商品化事業者が指定保管施設において引き取り作業を行う場合に、再商品化事業者に対して、甲の諸規則及び指示を遵守することはもとより、作業の安全管理等について、善良なる管理者としての注意義務をもって引き取り作業を実施するよう指導する。</p>	<p>(引き取り方法) 第6条 略</p> <p>2～5 略</p> <p>6 甲は、引き渡し量の検量方法について、再商品化事業者と事前に協議して決定する。また甲は、引き渡し対象となる分別基準適合物について、再商品化事業者とともに引き渡し後の完了確認等を行い、誤引き渡しの防止に努めなければならない。</p> <p>7 甲は、再商品化事業者の引き取り作業が著しく困難であると認められる場合には、再商品化事業者が円滑に引き取りを実施できるように努める。</p> <p>(引き取り作業) 第9条</p> <p>乙は、再商品化事業者が指定保管施設において引き取り作業を行う場合に、再商品化事業者に対して、甲の諸規則及び指示を遵守することはもとより、作業の安全管理等について、善良なる管理者としての注意義務をもって引き取り作業を実施するよう指導する。</p>

<p>2 <u>甲は、再商品化事業者による引き取りに際し、引き取り作業の予定の急な変更、事前連絡のない引き渡し量の変更又は指定保管施設若しくはその周辺における長時間待機等、正当な理由なく再商品化事業者にとって不当な負担となる行為がなされないよう指定保管施設の管理・監督を行い、円滑な引き取りに作業ができるように努めなければならない。</u></p> <p>3 <u>乙は、再商品化事業者の引き取り作業に係る事故の対処については、甲と誠意をもって協議のうえ、これを解決する。</u></p> <p>(指定保管施設) 第10条</p> <p>1 <u>甲は、指定保管施設における一般廃棄物の選別及び保管等、指定保管施設に対し中間処理のための適切な管理・監督を行うとともに、乙に引き渡される分別基準適合物に異物が混入しないための対策を講じるよう努めなければならない。</u></p> <p>2 <u>指定保管施設内において本契約以外の一般廃棄物又は産業廃棄物の中間処理を実施している場合、甲は、本契約の対象となる分別基準適合物に、本契約以外の廃棄物が混入しないよう区分け管理を徹底する等の防止策を講じるよう努めなければならない。</u></p> <p>3 <u>指定保管施設での選別や保管の管理について疑義があると乙が認めた場合、乙は甲に対し、指定保管施設の管理体制について改善を要求することができる。甲は、乙から改善の要求を受けた場合、速やかに具体的な改善策を乙に書面で提示し、改善のために必要な措置を講じるものとする。この場合において、改善のための必要な措置が講じられない又はその見込みがないと乙が判断した場合、乙は、甲からの引き取りの全部又は一部を留保することができる。</u></p> <p>4 <u>前項による甲からの引き取りの留保が継続したまま本契約が終了した場合、引き取りが留保された分別基準適合物は乙に引き取られないものとし、甲の負担において適正に処理するものとする。</u></p> <p>5 <u>本条への違反が認められた場合、乙は次年度以降における覚え書きの締結を拒むことができるものとする。</u></p> <p>(以降、条番号繰下げ)</p>	<p>2 乙は、再商品化事業者の引き取り作業に係る事故の対処については、甲と誠意をもって協議のうえ、これを解決する。</p> <p>(新設)</p>
---	--

以上